

子どもたちが主役になる
地域づくりに向けて
～中和田ハッピースマイル
プロジェクト～

令和5年11月28日（火）
和泉中央地区地域福祉保健計画推進会議

地域福祉保健計画推進や地域づくりに
子どもが加わると…？

子どもが主体となって行った
地域づくりの取組み事例として

昨年度、中和田小学校の3年3組と
4年1組の児童の皆さんが行った
「中和田ハッピースマイルプロジェクト」
をご紹介します。



🌸 発表の流れ

- 1 中和田ハッピースマイルプロジェクトの取組みについて
(きっかけ～授業、発表会まで)
- 2 プロジェクトを通してさまざまな影響が！
- 3 地域福祉保健計画との関連について
- 4 取組みを通じて感じたこと

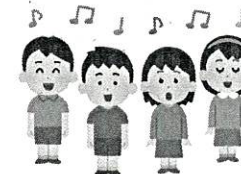
プロジェクトのきっかけ はじまりは令和3年度にさかのぼる…

学校の先生からケア
プラザに相談が入る

→ デイサービスの利用者
に向けて子どもたちによる
発表会を実施！

→ 発表実施まで時間がなかったため、
場所を提供するのみに。
しかし子どもたちの思いを聞くと…

ケアプラザの場所を使って
発表をしたいのですが…



もっとたくさんの方に
見て楽しんでもらい
たいなあ…



プロジェクトのきっかけ

翌年(令和4年) 総合的な学習の時間にて

人と関わる機会をつくって、
自分たちで笑顔を増やしていきたい!

コロナで人と関わりが
少なくなっているよ

地域の高齢者の方々に何かしたいな

いこいの家には地域の方が集まって
お茶をしたりしているらしいよ

できる限りみんなが
楽しめるものをしたい



クラスみんなで協力して取り組みたい

人の前で表現する力を身につけたい

考えて行動する力
調べる力を身につけたいな

あきらめない力、苦手なことも
挑戦する力を身につけたい

プロジェクトのきっかけ

令和4年 秋頃

子どもたちからケアプラザに電話で相談が!



実は裏では…
事前に先生とケアプラザで相談し、
実現に向けて動いていた!

地域のみなさんを
元気にする発表会を
やりたいです!

大丈夫ですよ!

子どもたち

ケアプラザ

子どもたちの力で発表会の場所を確保!
発表会は3月1日に行うことに決定!

さらに、ケアプラザからの提案もあり…

3月の発表会に向けて、当日多く
参加されるであろう地域の方々、
主に高齢者の方々について学ぶ
授業を取り入れてみることに。

プロジェクトのきっかけ

プロジェクトを進めるにあたって、考えていたこと

★ケアプラザ・区社協は…

- ・高齢者だけでなく、地域全体に元気を与える取り組みにしたい!
- ・子どもたちに地域福祉保健計画のことを知ってもらう機会にもしたい!

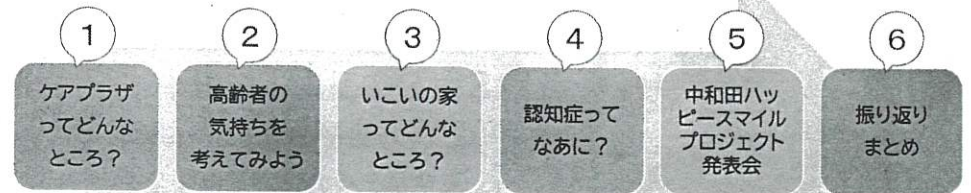


★学校の先生は…

- ・コロナで制限も多く、人前で何かを表現することが苦手な子も多い
楽しみながら、自分たちでなにかをやり遂げる力を身につけられたら!



プロジェクトの流れ



取組みが始動した11月末～3月まで、
総合的な学習の時間を活用して、数か月間かけて行いました。

授業① ケアプラザってどんなところ？

令和4年
12月9日
(金)

3年3組
4年1組

目的

発表会を行う「ケアプラザ」がどんな施設なのか学ぶ

内容

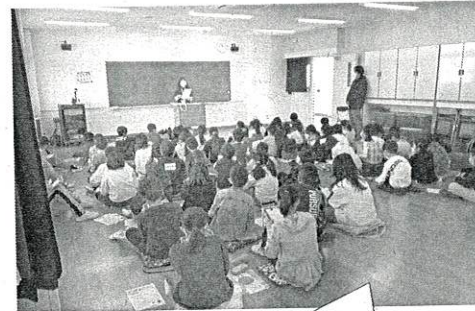
・ケアプラザや区社協について、どんな場所でどんな人が来ているのかなど説明

授業にて「発表会に向けて、見に来てくれる高齢者のことを学んでみない？」と投げかけると、子どもたちからやってみよう！との反応が

子どもたちが主体的に授業を進めていくかたちに



<授業の様子>



名前は知っているも
どんなところか知らなかった
ケアプラザについて学習



授業② 高齢者の気持ちを考えてみよう

令和5年
1月12日
(木)

4年1組

目的

発表会に来ていただく高齢者の普段の生活上の動きがどう感じられるのかを体験し、自分たちになにができるか考えるきっかけにする。

内容

・道具を用いて高齢者疑似体験を行った。グループに分かれて順番に、手足の動かしづらさや視界のちがい、指先の感覚のちがいなどを体験した。
・当日は保護者数名もお手伝いとして参加された。

手先の細かな作業は？

階段の上り下りは？



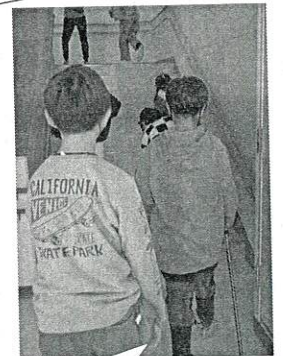
<授業の様子>



装具をすべて着用して体験



ゴーグルを着用し見えにくさの体験
ベストに重りを入れて上半身の動きにくさの体験



膝や足首の重りを装着し、歩きにくさの体験

授業② 高齢者の気持ちを考えてみよう

～授業を終えた子どもたちの感想～

- 思った以上に大変だった。
- 高齢者が道で休憩している意味が分かった。
- 人によって不自由なところが違う。元気な方もいる。
今日の体験以外にも大変なことがあるかもしれない。
- けがをした人も同じように大変なのかも。
- 自分にできることは「大丈夫ですか」の声かけだと思った。
- 高齢者を支える人もすごい。みんなで支えたい。
- 相手の気持ちを考えてサポートしたい。
- みんなが安心して暮らせるといい。

参加した保護者からは
なかなかできない体験で貴重な、
との声も聴かれた。



発表会に向けて
どんな工夫ができるか
みんなで意見を出し合った

一方、次の展開について…

せっかく地域のことを学んでいるこの機会に、学校の目の前にある「いこいの家」についても知ってもらい、身近に感じてもらえないだろうか… ⇒実現に向けて、進めることに！



ケアプラザ・区社協

ぜひ地域のことも
学べたら！



先生

和泉中央地区社協
会長・事務局長に相談
協力していただけることに！



いこいの家のお話聞いて
みたい！知りたい！



子どもたち

授業③ いこいの家ってどんなところ？

令和5年
2月10日
(金)

4年1組

目的

- 学校のそばにあるいこいの家がどんな場所なのか知ってもらい、身近な地域の居場所への理解を深めてもらう。
- いこいの家を利用される高齢者の様子や声を聞き、高齢者の生活について理解を深め、発表会に活かす。

内容

- 和泉中央地区社協 辛島会長、京増事務局長に講師として参加いただき、インタビュー形式で、いこいの家ができた経緯や取組みについて話してもらった。
- 子どもたちがいこいの家でやってみたいことのアイディアも聞いた。



<授業の様子>



インタビュー形式で
いこいの家を立ち上げた
きっかけや取組みについて
お話

子どもたちからも、
いこいの家でやってみたいことや
どんな工夫をすれば利用者が
増えるかなどアイディアを発表



授業③ いこいの家ってどんなところ？

～授業を終えた子どもたちの感想～

- ・高齢者だけでなく、地域の人が誰でも行っていいと知った。
- ・一人暮らしの高齢者や困っている人のためにある。認知症の人も楽しめる。
- ・自分たちが生まれる前からあることに驚いた
- ・いこいの家たよりが家に届いたら見てみたい。
- ・いこいの家の前を通ったら手を振ってみたい。入ってみたい。
- ・イベントに行ってみよう。お手伝いしてみよう。
- ・いこいの家のイメージが変わった！
- ・中和田小のみんなにもいこいの家のことを伝えたい！

授業④ 認知症ってなあに？

令和5年
2月14日
(火)

4年1組

目的

- ・高齢者がなりやすい脳の病気「認知症」について理解を深める

内容

- ・認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座の講義を実施
- ・児童も一緒に紙芝居の寸劇に参加し、認知症になるとどんなことがおこるのか理解を深めた



<授業の様子>

認知症の症状について、クイズも交えながら理解を深める

認知症キャラバンメイトの方々に協力いただき、認知症サポーター養成講座を実施

紙芝居を使った寸劇で認知症の方の様子や、周りの人はどんなサポートをすればよいかを学んだ

授業④ 認知症ってなあに？

～授業を終えた子どもたちの感想～

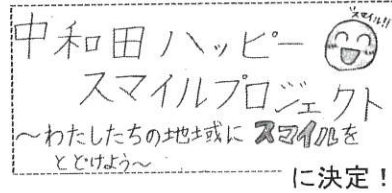
- ・見た目ではわからない。元気に見える人でも、認知症かもしれない。
- ・認知症への考え方が変わった。
- ・認知症の方へやさしく接することで進行を遅らせることができる。
- ・やさしい口調で話しかけると安心できる。
- ・自分のおばあちゃんにやさしく接しようと思った。
- ・家族以外にも今日知ったことを活かせる。自分にできることをしたい。

＼学んできたことを活かして、どんなプロジェクトにしたいか？／

いろんな方を笑顔にして、来てよかったと思ってもらえるような、忘れられないプロジェクトにしたい！

そしてその頃クラスでは…

- ★プロジェクト名を決めよう！
たくさんのアイデアが出た中、
みんなが共通する言葉は「笑顔」



に決定！

- ★児童が作成した発表会のチラシが完成！

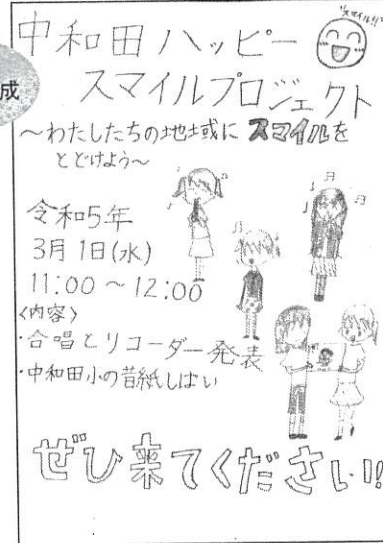
→子どもたちの手作りの発表会、プロジェクトに！



学んだことを活かして、
発表会に向けて準備を重ねていく…



表面
児童が作成



表面で
詳細を補足



⑤ 中和田ハッピースマイルPJ発表会

令和5年
3月1日
(水)
3年3組
4年1組

目的

- ・地域の方に笑顔になってもらえるように、練習してきたことを発表する。
- ・これまでの授業で学んできたことを発表会の場で活かす。

内容

- ・3年3組の児童による、中和田小学校の昔紙芝居
- ・4年1組の児童による、合唱、リコーダー演奏
- ・和泉中央地区地域福祉保健計画の紹介



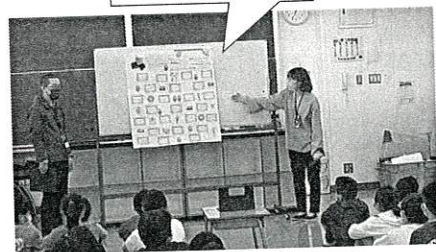
<発表会の様子>



地域にお住まいの方々やいこいの家のスタッフ、デイサービスの利用者、児童の保護者や兄弟など...約70名の方が集まり、子どもたちの発表を楽しみました!



<授業の様子>



発表会参加者からの感想を紹介

児童から授業や発表会当日の感想を発表



地域福祉保健計画について説明、啓発グッズのプレゼント



授業⑥ 振り返り、まとめ

令和5年
3月13日
(月)

3年3組
4年1組

目的

- これまでのプロジェクトを通して学んだことを振り返る
- 地域福祉保健計画について子どもたちに知ってもらう

内容

- 発表会に参加した方の感想を紹介
- プロジェクトや発表会を終えての児童の感想を発表
- 地域福祉保健計画についての説明、啓発グッズのプレゼント

今回のプロジェクトが地域福祉保健計画にもつながっていること、子どもたちも地域づくりと一緒に取組んでいく一員であることを伝えた!

♡参加者の感想

- 美しい声を聞かせてくれてありがとう。
- 児童の皆さんの一生懸命な顔に、心が明るく和みました。
- みんなの一生懸命さに元気をもらいました。
- とても素敵な発表で、笑顔になりました。
- 頑張って練習したことが分かり、子どもたちの元気な姿に感動しました。
- 楽しいひと時をありがとうございました。
- 3年生の紙芝居の絵のすばらしさ、4年生の歌声には涙が出ました。元気、勇気、やる気をもらいました。
- またこういう発表を続けてほしいです。
- 元気になる歌や紙芝居、ありがとう。ハッピースマイルになりました。

♡子どもたちの感想（3年3組）

- 表紙をめくり忘れ、失敗してしまった。
- 大きな舞台で発表できて楽しかった。
- 声が大きく出せた。まさか、あんなに沢山の人が来るとは思わなかった。
- 緊張したけれど、地域の人々の声（感想）を聞けて「やってよかった」と思った。
- みんなで協力して、地域の人を笑顔にできて、プロジェクトを達成できて安心した。
- 失敗もあったけれど、地域の人々の感想をもらえて、1年間とおして頑張ってきたよかった。
- 地域の人に「中和田小学校の昔」について知ってもらえてよかった。
- 失敗したけど、嬉しい感想を聞けてよかった。

※3年3組は発表の経験を生かし、その後地域の幼稚園に紙芝居を聞かせに訪れたとのこと。

♡子どもたちの感想（4年1組）

- 緊張して、ちょっと失敗してしまったから、次の機会には頑張りたい。
- いこいの家、ケアプラザ等、いろいろな協力があって、よい発表となった。
- いろいろなことを経験したからプロジェクトが成功したのだと思う。
- 来てくれた人が、最初から最後まで見てくれてうれしかった。
- 発表をして、その感想をもらえて、やってよかったと思える。
- 認知症について知り、自分の祖父母が認知症になったら、町で困っている人がいたら、助けてあげたいと思う。

普段から自分で考えて行動したい。
はじめの一步を踏み出せる人になりたい。
練習をすれば自信になる。練習の大切さを学んだ。
日常でも自分にできることをしたい。

子どもたち自身の
内面の成長も！

プロジェクトを通してさまざまな影響が！

♡子どもたちには…

- 授業を通して、福祉や地域への関心や理解を深められた
- 学んだことから、自分もこれからこうしたい、という気持ちが芽生えた
- 自分たちで考えて行った発表会で、地域の方の喜ぶ姿にやりがいや達成感を得られた
…自己肯定感を育むことにもつながる！
- 人前でなにかを表現する経験を積むことができた

プロジェクトを通してさまざまな影響が！

♡地域には…

- 一生懸命な子どもの姿に元気をもらったという声が聞かれた
- 地域の活動を子どもやその保護者にも知ってもらえた
- 地域と学校のつながりをつくる機会になった

♡地域福祉保健計画の広がり

- プロジェクトに参加した子どもたちはもちろん、子どもを通じてその保護者や発表会の参加者にも知ってもらえた

和泉中央地区地域福祉保健計画の 目指すまちの姿から

❁ 多世代が集う発表会の場を設けた

➡ 「気軽に交流できる機会・場があるまち」

❁ 授業を通じて支え合う心を育んだ

➡ 「お互い助け合い支え合うまち」

❁ 子どもの頃から地域へ関心を持ち、知ること
で地域への愛着を育むことを目指した

➡ 「地域の担い手が育つまち」



取り組みを通じて感じたこと

ケアプラザ・区社協



大切にしていたことは、

❁ 子どもたちの「知りたい・やってみたい」を引き出すこと

❁ 子どもが学んだことを振り返り意味づけること

大人に与えられるのではなく自分たちで主体的に取り組んでいることを感じてもらう。

そのためには

❁ やりたいことを実現するための、周りの大人のサポートが重要
人や場をつなげる、あともう一步を補足する、など。

周囲の大人の働きかけによって、子どもたちのできることが広がる！

子どもたちも地域づくりのプレイヤーである！ (プレイヤーになれる！)

- ・子どもは地域の取り組みの参加者・お客さんだけでなく、プレイヤーとして主役にもなれる！
- ・子どもがやるからこそできること、意味があること、影響を与えることがある。
- ・子どもの自己肯定感を育む、学校と地域のつながりづくりなどのさまざまな可能性も秘めている！

取り組みを通じて感じたこと

先生



❁ ゴールに向けて一つ一つ積み重ねていく経験

❁ 子どもたち自身が主体になって（いるように持っていきながら）

取り組む経験

を子どもたちができたことは大きな財産。

❁ 学校だけではできないことも、他の機関や地域の方とつながった
ことで実現できた

かかわるきっかけができたことは、今後にとっても大きい。

さいごに

地域づくりは大人だけでなく、
同じ地域に住む子どもも巻き込んで、
多世代の住民が互いの強みを生かして
一緒に進めていけたら…
(保護者など若い世代と一緒に巻き込
める可能性も！)

～ご清聴ありがとうございました～

